

# 考え



そんなに言葉が  
ほしいのか？

弦楽器イルカ  ⇒ 友人

## 第十四回 『雑味しんぼ』と連載休止 ～G から Uへ～

---

この回でこの連載を「休止」にしてもいいと思って書くことにする。  
まず大きな結論を一番初めに書こう。

絶対安全の原発が爆発し国策が失敗した後、もうここには住みたくないから、国が集団疎開を計画して補助してほしい、と思う人がいる。過去の公害病でも個人が因果関係を立証するのは困難で、そもそも気づいたときにはもう遅すぎるからだ。

そういった人々にとって、「科学的に安心だから気にするな」「笑えば放射能は来ないからストレスを感じるな」と呼びかけるのは下手すれば逆風評であり、どう鼻屑目に見ても対症療法にすぎない。

ストレスの根本を取り除く原因療法は例えば、「被曝はしないほうが良いというのが科学的常識だから、希望者にはより被曝していない場所に移動してもらい、より被曝していない食べ物を手に入れられる環境を与える」ことだ。

風評の責任を取れと詰め寄る人はいるが、絶対安全をうたいながら爆発した原発の責任を取る人は誰もいない。

しかし、神も正義も死んだのではない。誰かに何かを期待して自分の思い通りにならなくても、それが当然なだけだ。

さて、時系列で整理して、次の各論に移る。

・2011年12月から2012年6月にかけて、この国の国会で、当時野党である自民党議員4名が計5回、参考人を招致するなどして、原発事故と関連した「鼻血」「健康被害」について、当時の与党である民主党に対して発言していた。

以下、野党時代の自民党側からの質問・意見。（国会議事録より抜粋）

[002/010] 179 - 参 - 東日本大震災復興特別委... - 8号 平成23年12月02日

○自民党が招致した参考人

「北海道に避難している方たちといろいろ話をしまして、その中で、例えば鼻血なんですけれども、そういうような症状を訴えていたお子さんが非常に多かったです」「自分の娘も鼻血を出したりしたんですが、それでもそれを被曝のせいだと私は初め考えておりませんでしたし、今でも疑っている」「目の前で今まで出したことのないような鼻血を出している子供たちがいたら、皆さんどうしますか」「今ここにいる皆さんに、福島の人は見えていますか、私が見えていますか」

[001/007] 180 - 参 - 予算委員会 - 8号 平成24年03月14日

○自民党議員

「ある小学校の、県南の小学校の保健便りです。

四月から七月二十二日現在の保健室利用状況では、内科的症状で延べ人数四百六十九名。内科的症状では、頭痛、腹痛、鼻出血、これ鼻血ですね、順に多くということ、これ結果で出ているんですね。これ、県南でもやっぱりこういう症状が出ると心配になるんですよ」

[001/001] 180 - 参 - 憲法審査会 - 4号 平成24年04月25日

○自民党議員

「井戸川町長が雑誌のインタビューでこんなことを言っているらしいです。私は、野田首相に双葉郡民は国民だと思っていますかと聞いたけど、国は、アメリカにSPEEDIのデータを先に知らせて、国民にはSPEEDIのデータを提供していなかった。今もって双葉町はSPEEDIのデータは来ていません。あの情報が入っていたら仙台方面に逃げていますよと。あるいは、ベントの連絡もなかったと。それから、国、東電は、止める、冷やす、閉じ込めると言い張って絶対に安全だと言ってきた結果がこれで、我々は住むところも追われてしまった。放射能のために学校も病院も職場も全て奪われて崩壊しているのです。私は脱毛していますし、毎日鼻血が出ています。この前、東京のある病院に被曝しているので血液検査をしてもらえますかとお願ひしたら、いや、調べられないと断られましたよ」

[005/016] 180 - 参 - 東日本大震災復興特別委... - 8号 平成24年06月14日

○自民党議員

「子どもや胎児は、放射線への感受性が高いと言われており、低線量の放射線が人の健康に与える影響も科学的に十分解明されていないことから、保護者や妊婦の方は大きな不安を抱いています。今、私たちがすべきことは、未来ある子どもたちを原発事故による被害から保護するため、国を挙げて、あらゆる手段を尽くすことでもあります」「これから子どもが結婚適齢期になったときに、二十代、三十代のときに、もし病気になったらどうするんですかというような心配する親御さんの声があります。これに関しては、今までのこの国会での政府答弁ですと、残念ながら、大臣は東京電力に裁判してくださいということでした。それですと、被害者の方が、子どもたちの方が、この病気は原発事故によるものなんですよということを立証しなければいけない。これはほとんど無理でございます」「例えば、具体的にこんな心配の声をお寄せいただいています。子どもが鼻血を出した、これは被ばくによる影響じゃないかと心配なんだけれども、それを診察してもらった、検査してもらった、そのお金はどうなるんですかということですよ」

・2012年11月、岡山大、広島大、熊本学園大のグループが、双葉町の依頼で健康調査を実施したと報じられている。

双葉町以外に、比較対象として放射線汚染地域、原発から離れた地域の3箇所で調査した。

結果、双葉町と放射線汚染地域は、だるさ、頭痛、めまい、目のかすみ、鼻血、吐き気、疲れやすいなどの症状が有意に多かった。特に鼻血は多く、原発から離れた地域と比較すると、双葉町が3.8、放射線汚染地域が3.5のオッズ比であった。

・2012年12月、米軍兵士8人が東電を相手に「放射能を浴びた」「甲状腺の異常や持続性片頭痛、腸からの出血などの症状が見られる」として、1億1000万ドルの損害賠償を求める民事訴訟を起こしたと報じられている。

・2014年3月、米国軍人100人余りが、「放射線に被ばくして、がんや脳腫瘍など多様な病気になった」と、東電を相手に10億ドルを請求する訴訟を連邦裁判所に出したと報じられている。

・2014年5月、『美味しんぼ』にて、医師、元町長、大学准教授らが実名で登場し、鼻血と被ばくの関連性や、除染の困難さなどについて語る。

・2014年5月、上記、自民党議員の国会発言について記者会見で問われた環境大臣は「私の認識は変わっていない」「発言の内容を知らないのでコメントは差し控える」と述べた。

上記のうち一つだけ、「風評被害を助長する」として、国や県、政治家等、権力者のコメントが大々的に報じられたニュースがある。他の件に関してはコメントもされず、ほとんど語られることのないニュースだ。

また、特に（元）町長の発言に関しては、野党時代の自民党議員は与党を批判する材料として使用したが、与党となった現在は各議員が「風評」「不快」等のコメントを出している。しかし、（元）町長の発言は震災直後から特に変わっていない。

更に上記で、「今、私たちがすべきことは、未来ある子どもたちを原発事故による被害から保護するため、国を挙げて、あらゆる手段を尽くすこと」「被害者の方が、子どもたちの方が、この病気は原発事故によるものなんですよということを立証しなければいけない。これはほとんど無理」「子どもが鼻血を出した、これは被ばくによる影響じゃないかと心配」と述べていた議員は現在、消費者担当相として『美味しんぼ』に対し、「影響力の大きさを考えると、福島県民と子供たちの根拠のない差別や偏見を助長するようなことについては大変、遺憾だ」とのコメントを出している。

（過去を振り返っても公害病の因果関係を個人で立証するのは「ほとんど無理」だと俺も思う。TPP、金融緩和、憲法解釈、地球温暖化、その他なんでもいいけど、全ての議論には対極の学説がある。その都度、権力者は自分にとって都合が良いほうの学説を選ぶだけだ。それが学問の存在意義のひとつだと俺は思う）

つまり、これがこの国の「風評被害」の成り立ち方だと俺は思う。

ただ公平に言えば、俺は鼻血がそこまで重大な問題だとは思っていない。

今回の原発事故の被曝は大したことじゃないという報告はいくつでもある。

例えば、2014年4月、原子放射線の影響に関する国連科学委員会（UNSCEAR）報告書では、「最も高い被ばく線量を受けた小児の集団では甲状腺がんの低いリスクがある」としながらも、「

福島での被ばくによるがんの増加は予想されない」としている。

他にも何度か書いたが、2014年2月、「1歳女児のがんにかかる確率が1.06ポイント上がった」との推計結果が出たが、京大教授は「被ばくで確率はわずかに増えたが、健康への影響は小さい」と話している。これらを御用学者とかがん以外にも病気はあるとか非難する向きもたくさんあるだろうが、がんにかかる確率がわずかに増えたって他人や国にとっては大したニュースじゃないのに、鼻血ごときでは騒いでも世間の共感が得られると思えない。

ただ、「風評被害を助長する」と政府が言うなら、以下これだけは明確にしなければならないと俺は思う。

実際に鼻血を出した人がどのくらいいた（いる）のか。そして国策に失敗し天災+人災ミックスで原発を爆発させたこの国は、被曝で健康に不安を抱えている人に対して、これからどんなケアをしていくのか。

あと前にも書いたが、言葉に対して誠実に向き合う気があるなら、いい加減「風評被害」はやめて、「微量ヒバク（微バク）被害」とでも言い替えたほうがいと俺は思う。程度の差こそあれ、原発事故で世界中がヒバクしたのは明確な事実だ。そこを曖昧にするのは潔い侍ジャパンじゃなく、むしろお決まりの隠蔽体質に近い。

また、上記のニュースと対比すべきニュースが2件あると俺は思っている。

「原発作業員100人が待遇改善を求めてデモを行った」ニュースと、「2011年3月24日、東電の元請けと下請けの作業員計6人が、津波で浸水した3号機のタービン建屋地下でケーブルを設置する作業にあたった際、汚染水にくるぶしまでつかった3人が最大で180ミリシーベルトの被曝をした。そのうちの一人、少なくとも20ミリシーベルト以上の被曝をしたと主張している原発作業員だった男性（48）が、東電と関電工などに1100万円の損害賠償を求める訴訟を起こした」ニュースだ。

この二つのニュースも、『美味しんぼ』に比べればほとんど報じられることなく、特に誰も何もコメントしない。

そうやってこの国の経済は回っている。良くも悪くもない。それが現実だ。

さて、こっからが本日のメインディッシュだ。

『美味しんぼ』に関して、俺だったらこう書くをこの回の最期にやろうと思っている。

その前に、「風評被害のDV（家庭内暴力）化」について書いておく。

前にも書いたけど、この国は「風評被害」をDV化し、家族＝国民同士を争わせることに成功した。

例として、父＝国や電力会社等、母＝市町村等、息子＝従順な国民、娘＝美味しんぼな国民とした場合を考えてみよう。

父＝国や電力会社が「暴力＝被曝はしていない。大したことじゃない」と言い、母＝市町村、息子＝従順な国民も「暴力＝被曝はされてない。特に問題ない」と言う。

さて、そこで娘＝美味しんぼな国民が「暴力＝被曝している。大きな問題だ。この家にはいら

れない」と言う。

通常のDVであれば、そういったトラブルの理想的解決法は「娘＝美味しんぼな国民の言っていることが正しいかどうかはわからないが、他の家族からストレスを与えられないように保護＝隔離して生活を立て直す補助をしてやり、その後実態を調査する」ことだろう。

しかし実際にこの国では、「黙っている」「迷惑かけるな」「嘘つくな」と罵る人と、「いや、正しい」「応援するから頑張れ」と励ます人が右と左で不毛なケンカをするだけで、娘は自主的に避難こそすれど、きちんと保護＝隔離されて生活を立て直す補助はされていないし、実態の調査も曖昧だ。

そしてそこに、留学生＝米兵がホームステイに数日間やってくる。留学生＝米兵は家庭内のいざこざと奮闘し帰った後、「あの家で暴力＝被曝された。病気になったから一人につき約10億円よこせ」と父に訴訟を起こす。しかし今度はこれを罵る人はほとんどいない。

つまりこうやって、父＝国や電力会社等に都合良く家庭が営まれていく。

それでは最期に、『雑味しんぼ～俺ならこう書く編～』いってみよう。

不安を抱え、ストレスで病気になり、辛い思いをしている避難民に会う山岡たち。

栗田さん「ねえ、山岡さん。あの人たちをなんとか励ましてあげられないかしら。何か、得意の料理で」

山岡「よし、まかせておけ！」

どこかへ出かける山岡。数時間後。

山岡「できたぞ、究極の料理！」

栗田さん「え、なにそれ？ スルメイカと、人参？」

山岡「そう。これこそ地域に伝わるソウルフード、イカ人参だ！ さあ、食べて！」

人々「イカ人参なんて、今更食っても……」

きゅぴーん。

人々「な、なんだこれは、ウマすぎる！」

山岡「このスルメイカは、とりあえず富山の名産品っぽいな。しかも、人参も青森の雪にんじんって名産を使ってるらしい！ 調味料の酒や醤油だって……（いろいろそれっぽいウンチク）」

人々「確かにウマイが、全部、県外産の材料じゃないか、風評被害にビビったのか！ 食べて応援しなきゃダメだろ！」

雄山「食べて応援するのは、あなたたち県内の大人や子どもたちじゃない。より被曝していない県外の人たちが食べて応援するべきだ。そして日々、他の地域より被曝している大人や子どもたちはむしろ、より被曝をしていない地域の食べ物を口にすることが、理に適っている」

人々「確かに各地の名産で作ったイカ人参はウマイ。でも、県内産のイカ人参が、あのどこにでもある味が懐かしい。いつか震災前のように、誰もが県内産の材料を気兼ねなく、本当になんの迷いも確認もなく食べていたあの頃に早く戻ってほしい」

栗田さん「線量をいちいち測ってから食べなければいけない今の状況は普通なのかしら？それが本当の安心だってありがたがらなきゃいけないのかしら？こんな状況にしたのは一体誰で、どう責任をとったのかしら？」

翌日。山岡、栗田さんと二人で話している。

山岡「彼らのなかにもし、病気で死ぬ人が出ても、原因不明や、避難によるストレスが原因って死因になるかもしれない。被曝の因果関係なんてそう簡単に立証できるものじゃない。でも、原発が爆発しなければそんなストレスを感じることはなかったし、放射能のせいでもたらされた震災関連死なのは間違いない。しかし、そうやって死んでいく人は特にニュースにはならない。この国は昔から、そういう尊い自己犠牲の、我慢強い人々によって支えられた国なのかもしれない」

同僚の女性の人「山岡君。そういうことは、サービス残業をしてから言ってよね！」

声の高い上司の人「そうだぞ、山岡！おまえが偉そうに言えた義理か！おまえ、全然サービス残業しないから、俺ばかり仕事が回ってきて大変だ！社主、私の残業代、もっと増やしてください！」

社主「断る！」

声の高い上司の人「ひー、断られたー！ブラック新聞社だー！訴えてやるー！」

ほのぼのとした笑い。

Fin.

今回はこんな感じ。最期、すごい雑だけど。

どうかな？



## 「はみだしウマシカさん その2」

---

今回は、前にも何度か書いてる作業員のリストを更新しておきます。

### ■作業中に亡くなった原発作業員

- 2014年3月28日 50代 土砂などの下敷き（実名報道あり）
- 2013年2月27日 50代 心肺停止（死因非公開）
- 2012年8月22日 50代 急性心筋梗塞
- 2012年1月9日 60代 急性心筋梗塞
- 2011年10月6日 50代 後腹膜腫瘍による敗血症性ショック
- 2011年8月30日 40代 急性白血病
- 2011年5月14日 60歳 心筋梗塞（実名報道あり）

### ■作業中に亡くなった除染作業員

- 2014年1月25日 58歳 運転していたローラー車ごと転落
- 2013年11月19日 46歳 ユニック車の下敷き
- 2013年10月12日 61歳 バックホーが土手から転落
- 2013年5月21日 30歳 クレーン付きトラックにはねられる
- 2013年3月22日 51歳 油圧ショベルカーの走行用ベルトに右足を挟まれる
- 2013年2月28日 54歳
- 2012年1月17日 59歳
- 2011年12月12日 60歳

彼らのニュースもとても小さい扱いのままだ。

それについてもずっと考えている。



考えるウマシカ～第十三回『雑味しんぼ』と連載休止～

<http://p.booklog.jp/book/86102>

著者：弦楽器イルカ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/86102>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/86102>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ